

## 情熱の国スペインの国債が妙に冷静

2013年3月1日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 藤代 宏一

TEL 03-5221-4523

15:18 現在

### <主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均株価	11606.38 円	47.02 円
TOPIX	984.33 pt	8.67 pt
NYダウ	14,054.49 <sup>ドル</sup>	▲20.88 <sup>ドル</sup>
DAX(独)	7,741.70 <sup>ドル</sup>	65.87 <sup>ドル</sup>
FT100(英)	6,360.81 pt	34.93 pt
CAC(仏)	3,723.00 pt	31.51 pt
上海総合※	2,341.85 pt	▲23.74 pt

### <外国為替>※

ドル円	92.55 円	▲0.01 円
ユーロ円	121.04 円	0.19 円
ドルユーロ	1.3078 <sup>ドル</sup>	0.002 <sup>ドル</sup>

### <長期金利>※

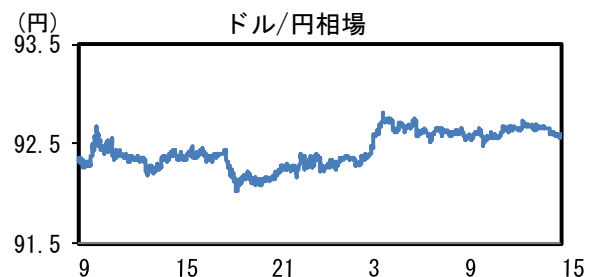
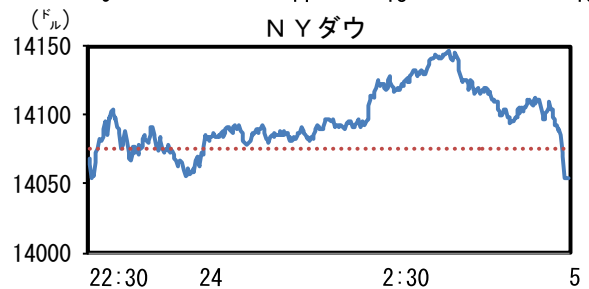
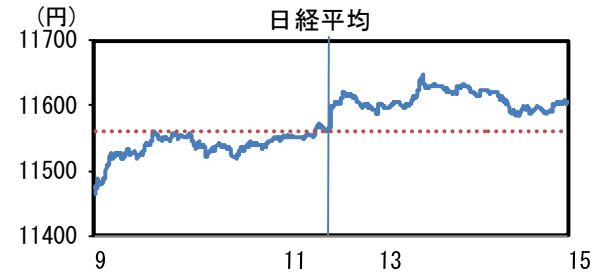
日本	0.655 %	▲0.010 %
アメリカ	1.876 %	▲0.026 %
イギリス	1.973 %	0.015 %
ドイツ	1.454 %	0.003 %
フランス	2.169 %	0.003 %
イタリア	4.734 %	▲0.077 %
スペイン	5.097 %	▲0.135 %
オーストラリア	3.338 %	0.002 %

### <商品>

NY原油	92.05 <sup>ドル</sup>	▲0.71 <sup>ドル</sup>
NY金	1578.10 <sup>ドル</sup>	▲17.60 <sup>ドル</sup>

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg



## 【海外株式市場】 ~自動歳出削減が重石~

28日の米国株式市場、NYダウ平均株価は反落。前日比▲20.88<sup>ドル</sup>の14054.49<sup>ドル</sup>で取引を終了。米経済指標が好感され史上最高値を窺う水準で推移していたものの、引け間際に自動歳出削減関連の動議が上院で否決されたとの報道を受けると急速に値を下げた。

3月1日より発動される自動歳出削減について、代替法案を採決に持ち込むための動議が否決されたが、それ自体は想定範囲内。引けにかけての下落は、1日のオバマ大統領、民主党、共和党執行部による会談結果を見極めたいとの思惑が強まった模様。

GDP成長率(10-12月期改定値)は前期比年率+0.1%と速報値の同▲0.1%から上方改定され、辛うじてプラス成長に転じたものの、市場予想(同+0.5%)は下回った。市場予想下振れの主因は、在庫投資と政府支出の減少。その他、設備投資と住宅投資は上方改定、個人消費はほぼ変わらずだった。

新規失業保険申請件数は34.4万件と市場予想(36.0万件)より減少、前週(36.6万件)から改善した。

2月シカゴ購買部製造業景況指数は56.8と悪化を見込んでいた市場予想(54.0)を上回り、前月(55.6)から改善。項目別にみると、新規受注(58.2→60.2)が改善する一方で雇用(58.0→55.7)が悪化。

## 【外国為替相場・債券市場】 ～遠のくユーロ高～

28-1日の外国為替市場では、ユーロがドルや円に対して売られる展開となった。イタリアの政局不安が重石となった他、ユーロ圏CPI（前年比+2.0%）を受け利下げ観測が高まったことが背景。ユーロの上昇はイタリアの政局不安と利下げ観測が熾り続けている限り、限定的なものとなろう。他方、ドル円は米長期金利の上昇を手掛かりに日米金利差拡大が意識され円が売られた。

## 【国内株式市場】 ～中国PMI、法人季報～

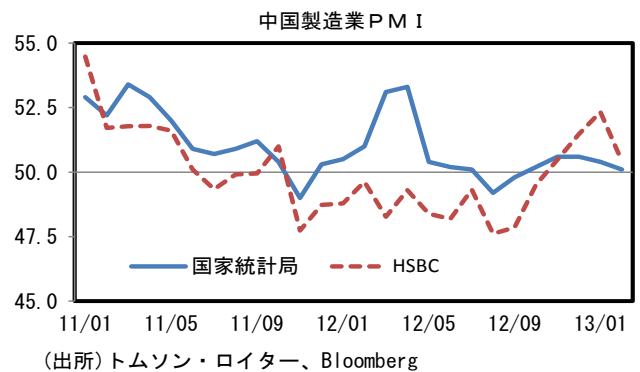
1日の東京株式市場、日経平均株価は続伸。前日比+47.02円の11606.38円で取引を終了。為替円安が好感されたものの、自動歳出削減の発動回避に向けた協議の行方を見極めたいとの思惑が強く、積極的な買いが手控えられた。もっとも、前日の大幅上昇を踏まえれば、かなりの強気相場と言える。

中国PMI（政府発表）は市場予想を下回ったものの影響は限定的。なお、中国PMI（HSBC確定値）は50.4と速報値から変わらず。市場予想（50.6）を下回った（図）。

中国PMI（政府発表）は50.1と小幅改善を見込んでいた市場予想（50.5）に反して前月（50.4）から悪化。辛うじて節目となる50は維持したものの、改善にブレーキがかかっている。項目別にみても、先行性のある新規受注

（51.6→50.1）と新規輸出受注（48.5→47.3）が揃って悪化しており、ヘッドラインの悪化以上にネガティブ。ただし、中華圏旧正月の影響（統計の歪み）を見極める必要があるため2月実績をもって判断するのは拙速。正確に実勢を把握するには3月データを待つ必要がある。

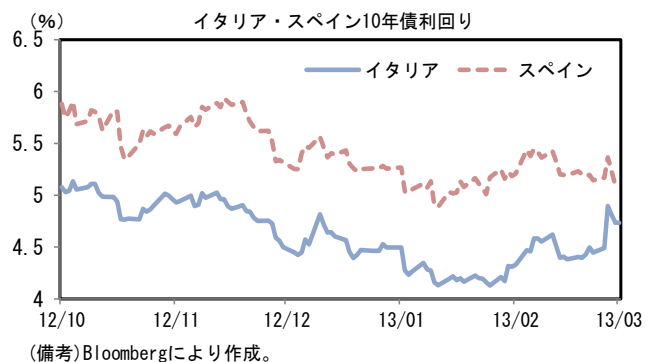
法人企業統計（10-12月期）は、経常利益こそ季節調整前前期比+2.4%と三四半期ぶりに改善したものの、売上高は同▲2.6%となり三四半期連続の減少となった。内外経済の減速や日中関係の悪化の影響が残存した模様。ただし、これは過去データ。今次局面の円安は部分的にしか反映されていない。1-3月期には製造業を中心に鋭く売上が回復するだろう。



## 【注目点】 ～情熱の国スペインの国債が妙に冷静～

伊総選挙によって世界の金融市場は一旦大きくリスクオフに傾斜したものの、その後の金融市場は落ち着きを取り戻している。28日の欧州債市場ではスペイン10年国債利回りが低下し、概ね伊総選挙前の水準まで切り下げた（図）。昨夏のように重債務国間の長期金利が同時に上昇するような“横への連鎖”は今のところ観測されておらず、欧州市場は妙に落ち着いている。

ただし、イタリアの政局への不透明感があまりにも強く、“動くに動けない”側面があることは割り引いてみくおく必要があるだろう。ベルルスコーニ氏は過去、発言を二転三転させており、同氏の言動を予想した上でのポジションメイクは困難を極める。イタリアの政局を冷静に見極めたいとの思惑が表面上の落ち着きを醸成している面が少なからずあるだろう。同氏が再選挙の実施を求めていることが市場の安心感に繋がっているものの、今後、同氏が発言を二転三転させる可能性は十分にある。イタリアの政局が混迷を極めれば、欧州市場の落ち着きも長くは続かないだろう。要警戒だ。



## 【NYダウ・日経平均株価予想レンジ（5営業日内）】

NYダウ 13700~14200<sup>ドル</sup> 日経平均株価 11000~11900円

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。